

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

岩手県内の新型コロナウイルス陽性者は、11月25日現在で162名です。県が発表したデータに基づき162名の情報を整理してみました。

岩手県は、10月末までの感染者が27名と全国で最も少ない県でした。

11月に入りクラスター(感染者集団)が次々に発生したことにより、11月の1か月だけで135名もの感染者が発生しました。(24日現在)

感染者を年代別でみると、20代が35名で22%、40代が33名で20%、50代が32名で20%です。

飲食店や、福祉施設クラスターが発生したことにより、濃厚接触者である職場の同僚や家族、そして高齢者への感染も増えてきました。

年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	男性	比率
男性	1	0	22	9	21	20	10	4	3	1	91名	56%
女性	5	1	13	9	12	12	7	4	6	2	71名	44%
合計	6	1	35	18	33	32	17	8	9	3	162名	
比率	4%	0%	22%	11%	20%	20%	10%	5%	6%	2%	100%	

症状では、患者の52%で発熱症状があるほか、咳が35%、倦怠感26%、咽頭痛25%、症状なしが20%となっています。

症状なし【無症状病原体保有者】の陽性者は、濃厚接触者等の検査が行われた結果増加したもののと思われます。無症状者が多いことも感染拡大の一因になっているようです。

発熱	咳	倦怠感	咽頭痛	症状なし	頭痛	関節痛
85名	57名	41名	40名	33名	26名	13名
52%	35%	26%	25%	20%	16%	8%

症状を見ると、発熱や咳、倦怠感、咽頭痛、頭痛等の症状がみられるほか、複数の症状が出ています。

2つの症状が出ている方が35名22%で、3つ以上の症状が出ているケースも多くみられます。中には8つの症状が出ている方もいました。

症状数	なし	1	2	3	4	5	6	7	8	計	比率
7月	1名		3名							4名	2%
8月	1名	2名	3名	2名	4名	3名				15名	9%
9月		1名	3名							4名	2%
10月				2名	1名		1名			4名	2%
小計	2名	3名	9名	4名	5名	3名	1名			27名	17%
11月	31名	28名	26名	23名	15名	6名	4名	1名	1名	135名	83%
合計	33名	31名	35名	27名	20名	9名	5名	1名	1名	162名	100%
比率	20%	19%	22%	17%	12%	6%	3%	0%	0%	100%	100%

農家レストラン探訪

胆沢平野の散居集落の中にある農家レストラン「まだ来すた」に行ってみました。



ご飯は、「ぬか釜」(粳殻燃料)で炊きあげ、「おこげ」もありました。メニューの中から、「豆太郎セット」を食べてみました。豆腐ハンバーグがなんとも美味しい一品。

季節限定「舞茸天井セット」も美味しそう。ぜひ一度寄ってみてください。



豆太郎セット(豆腐ハンバーグ)



舞茸天井セット

住所：岩手県奥州市胆沢若柳字大立目19

TEL・FAX：0197-46-4241

営業時間：ランチタイム11時30分～14時30分

定休日：月・第1.3日曜日：1・2月は金土日営業

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和2年11月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

奥州自慢コーナー： 胆沢平野の散居集落【日本三大散居集落】

奥州市内の胆沢平野は富山県の新潟（となみ）平野や島根県の出雲（簸川（ひかわ））平野とともに日本三大散居集落とされています。

この散居集落があるのは胆沢扇状地と言われる地域で、奥州市の胆沢・前沢・水沢にまたがる広大な扇状地である。奥羽山脈の焼石岳に源を発する胆



沢川と、南の衣川との間にある広大な扇状地で、扇頂は胆沢若柳字市野々として、東方に約20kmの半径を描き、扇端は北上川に及ぶ地域です。扇状地域には水利網が縦横に発達し、県下有数の稲作地帯で、典型的な散居村風景が見られます。

エグネ：（防風用の屋敷林）



エグネとは、散居の各屋敷の北西側に杉や栗、桐などを森のように植えて冬の季節風から屋敷を守る防風林です。杉は建築材に落葉はたきつけや肥料などにも使われ、屋敷の境界という役目もありました。冬は温かく夏は涼しく緑豊かで快適な住環境を形づくり、さらに、昆虫や小鳥も生息して鳴き声やさえずりは住む人たちの心に安らぎを与える音風景でもあります。

緑や心の豊かさが失われつつある現代生活には欠くことのできない自然・文化・生活が一体化した原風景です。

キヅマ：（薪を積んで塀状にしたもの）

キヅマはエグネの下に薪を重ねたもので、なかには藁やトタンの屋根をかけて遠くから見ると見事な塀のように見えてところもあります。キヅマは防風や防雪を担い、いろりやカマドで暖をとり、ご飯を炊いていた昔の農家の生活にとって重要なものでした。キヅマが崩壊すると家運が衰退すると信じられ、今でも大切に保護されています



連絡先名 焼石観光開発連絡協議会事務局

（奥州市胆沢総合支所産業振興課内）

所在地 〒023-0400 岩手県奥州市胆沢

電話番号 0197-46-2111 **FAX 番号** 0197-46-4455